

(1)

～震災から5年～（東京・生活者ネットワーク）
山田町ゾンタハウス「おらーほ」見学交流会
山田町・山田湾などの復興進捗状況を知る

2016. 8. 26～27

於：NPO法人こども福祉研究所山田支部 山田町ゾンタハウス



資料提供：岩手県山田町 山田町ゾンタハウス
街かどギャラリー事務局長 舟田春樹

(2)

東日本大震災から5年経過して

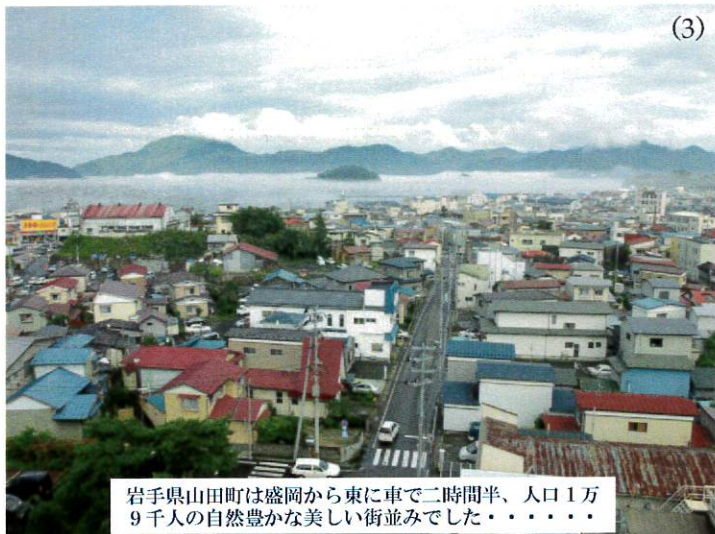
3.11 東日本大震災から早いもので5年5ヶ月が経過しました。現在各地区では復興の姿が形となって表れてきており希望の光も見えつつある状況です。

・・・しかし、あの悲惨な状況のなか途方に暮れた日々はやはり一生忘れる事はできないでしょう。

ここ山田町も八百数十名の方々が亡くなっています。改めて不本意な生涯を閉じた友人知人の皆様にはただただご冥福を祈るばかりです。

そんな状況のなか、東京・生活者ネットワーク様をはじめ全国の皆様から沢山の温かいご支援を頂いてきました。お陰様で現在はホッと一息つきながらゾンタハウスを利用する中高生はもとより小学生や一般の高齢者も希望をもって明るく毎日を過ごしている状況です。

皆様方には改めてこの場をお借りし厚くお礼申し上げます。





(7)

火災は広がる一方で延焼し続けます。風向きが変わって、これから山田町が残るか消滅するか、将来を左右する程の事態となりました。



(8)

車のガソリタンクやプロパンガスが爆発し周辺に飛散し続け全く手の施しようがありません。

震災の夜、避難所の状況

(9)

町役場に隣接した避難所のコミュニティセンターや中央公民館・保健センターには、寝たきり高齢者やケガ人が担ぎ込まれ数百人の被災者が不安な夜を過ごしました。

寒さに加えて、停電・断水のため急ぎょロウソクを灯し、施設のカーテンを外すなど、あらゆる布を利用して寒さをしのぎ、また近くの沢から水を汲み水洗トイレに使用するなど、その場その場で手探りの対応が続きました。

夜半過ぎには風向きが変わり始め、この避難所も危なくなり10km離れた隣の地区に再度避難することを迫られました。しかし、情報や道路が全て寸断され車両の手配が難しい状況のなかで避難者を安全に搬送することの難しさを感じながら必死で対応せざるを得ませんでした。また、時折自分の家族は？と考える事もありましたが、やはり目の前のケガ人や保育園の子供たち及び高齢者の安全を考えると無我夢中で対応することは当然の成り行きでした。



(10)

二日後、延焼し続けた大火災は鎮火したがまだ黒煙が立ち上る街並み



(11)

焼け焦げた電線・家屋・ガレキ・数多くの車両、この光景は夢か現実か理解しがたい心境でシャッターを切りました。



(12)

焦土化した中心市街地を呆然と見つめる避難者。我がふるさは過去の歴史になってしまったとの心境に胸が痛みました。



被災の状況

山田町は東日本大震災によって、市街地の大半が壊滅的な被害を受け、800余名が死亡ないし行方不明となり、倒壊家屋は3300棟にも及びました。

船越地区の高台にある船越小学校では、遠くの波を目を凝らして見ていた地元の校務員さんの機転で更に児童生徒を高台に避難誘導したことが児童生徒一人の犠牲者も出さずに済んだと報道されました。

しかし、その校庭に避難していた一般の方々々は残念ながら高さ18mの津波に飲み込まれるなど、個人の判断の違いにより運不運の現実を見せつけられました。

ただただ・・・ご冥福を祈るばかりです。

(19)



海拔15mの船越小学校。校務員さんの機転により児童生徒全員が助かる

被災直後の行動と役割

被災直後、山田町教育委員会生涯学習課を3月で退職し4月より災害対策本部にて再任用勤務、仮設住宅建設予定地の現地調査や、避難所で暮らす方々への物資の手配、困り事相談など聞き取り調査を行いながら少しでも被災者への力になるよう務めてきました。

避難所では、ショックのあまり話すことの出来なくなった方々や悲しみにくれる高齢者、安否確認できず遺体安置所を回っている方々にはなかなか掛ける言葉も見つからず、それぞれの被災者にはただただ黙って傾きながら話を聞いてあげることが精いっぱいでした。

(21)



素晴らしい公園が無残な姿に。(避難所訪問に向かう途中で・・・)



震災後5年5ヶ月が経過し、新しい公園の建設に向け盛り土工事が始まりました。

(24)



またいつかは桜の美しい素晴らしい公園に・・・！(震災前)



(25)

駅前通り・・・大きな「しなの木」がシンボルでした！（被災直後）



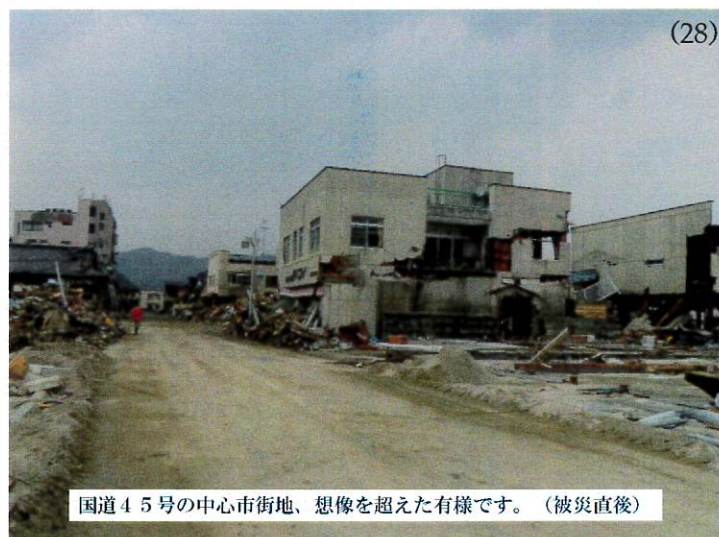
(26)

震災後5年5ヶ月が経過し、駅前通り商業地域は3～4mの嵩上げ工事が始まり、嵩上げ地盤に図書館・山田町ふれあいセンターがオープンしました。



(27)

駅前通り、またこんな街並みになってほしい！（震災前）



(28)

国道45号の中心市街地、想像を超えた有様です。（被災直後）



(29)

震災後5年5ヶ月が経過し周辺には仮設の商店街も建込み活気もできました。



(30)

とにかく、また夢と希望を持って「新しいふるさと山田」を！（震災前）

将来を担う子供たちへ

(31)

震災直後、全てが劣悪な環境のなかで大人たちは明日からの生活そのものが最優先でありました。

子供たちの学習環境はというと、悲惨な被災状況だけに手つかずであり、置き去りの状態が続きました。

そんな置き去り状態が更に続けば、当然学力は低下し被災地がゆえに子供たちは社会から取り残される事が懸念されました。やはり被災地であっても将来を担う子供たちには遅れを取り戻して更に力をつけて世の中に送り出してやる事が地元大人の責任ではないかと考えておりました。

そのようなところに、東洋大学社会福祉学部森田明美教授より山田町における学習支援策が提案され、現地受け入れスタッフとして竹内・佐藤・舟田の3名が山田町ゾンタハウス・街かどギャラリーの立ち上げや運営活動に参画することとなったものです。



ゾンタハウス周辺の浸水被災状況、建物内にガレキが流れ込んでいる。
(東洋大学社会福祉学部森田明美教授が現地調査。学習支援施設開設決定)



震災後4ヶ月、被災した空き店舗を賃借し、ゾンタハウス開設に向けて補修工事が始まる。



ガレキを搬出しヘドロを洗い流した街かどギャラリー予定店舗



東洋大学ゼミ生がギャラリー開設に向け壁塗り補修作業を行う。



街かどギャラリー壁塗り補修の完成を喜ぶ、にっじ・しんご・ぐっちゃん・かえでちゃん・ゆうちゃん（東洋大学ゼミ生ボランティア）



街かどギャラリーが完成し、ここでの様々なイベントや教室が開催され、こども達の居場所の確保や大人達の芸術文化発表の場となっています。



被災から6ヶ月後、ゾンタハウス開所式には学生利用者が出席し、開設のお祝いメッセージとともに将来の夢や希望を語ってくれた。



ゾンタハウスに支援を頂いてる、国際ゾンタクラブ26地区一行と記念撮影。



山田町ゾンタハウス、街かどギャラリーの活動風景



静かな学習環境の整った2階自習室で勉強に励む中学生達。



夕方にはゾンタスタッフが軽食の提供を行っており、まず空腹感を満たすことが精神的安定には欠かせない要素であり生徒達には好評である。



被災地中高生との意見交換会参加

ゾンタハウスの中高生たちは東京(東洋大学)で開催の3県被災地中高生意見交換会に毎年参加しています。また、その中高生たちは東洋大学ゼミ生の学習支援や様々な形のサポートを受けながら将来に向けた力を養う機会を得ています。

震災後5年5ヶ月が経過しました。昨今、東北の被災地が忘れ去られていくという状況を考えると、明日を担う中高生にとって大学生達のサポートは非常に有難く地元スタッフとしても心強い絆を感じております。

毎年3月には、中学生がゾンタハウスで学力を身につけ笑顔で巣立っていくのですが、それは今までご支援を頂いた皆様や東洋大学森田先生・ゼミ生の皆さんのお蔭なのです。ゾンタハウスの中高生たちは本当に幸せです。





(49)

東京ゾンタクラブ向井さんから街の案内をして頂きました。
高校生達は元気いっぱいです。



(50)

昼食ごちそうさます。区議会議員の吉田さんから
歓迎のお言葉を頂きました。



(51)

コープみらいの皆様と森田先生と共に日頃のご支援に対する
御礼と近況の説明を行いました。



(52)

夜行バスで初めて東洋大学にきました。(今年1月8日~11日)
今から、ゾンタ中高生はシンポジウム・意見交換会に参加します。



(53)

開会にあたり、ゾンタ中高生たちはシンポジウムに参加した皆様に一人
ひとりが御礼の言葉を述べ、自分自身の進路について報告しました。

《シンポジウムに参加して》

(54)

(堀合 京香 高3)

私はシンポジウムには3回目の参加です。
「今被災地にはどんな支援が必要なのか」をテーマとして話し合いをして
きましたが、今年は必要な支援のほかに「必要のない支援」についても話
し合いました。今回のシンポジウムはいつも考えたことのないことにふれ
ての話し合いだったので、私にとって改めて向き合い見つめなおす良い機
会となりました。ありがとうございました。(高3 堀合京香)

(湊 日和 高1)

昨年のシンポジウムでは自分の思いを話すことに少し戸惑いもありまし
たが、今回は2回目なので前回参加した他県の人たちとも再会でき皆さん
が優しく接してくれたのでたくさん話すことができました。嬉しかったです。

私にとってゾンタハウスは、友達がいて話を聞いてくれる大人がいて、く
つろぐ事が出来、勉強もできて教えてくれる人もいて、他にはない大事な
場所です。看護師を目指すこともゾンタハウスが見つけてくれました。
森田先生をはじめ大学生のみなさんゾンタスタッフの皆さん全国の支援く
ださった皆様本当に感謝しています。たくさんの方の支援や思い出をありが
とございます。

(湊 俊樹 高3)

(55)

私は今回二回目の意見交換会でしたので、被災3県の学生たちと緊張もなくいろいろな話し合いを行うことができました。
その話の内容を振り返ると全国の多くの皆さんから沢山の支援を受けてきたんだと感じました。二日目の意見交換会ではそれぞれの地域のこれかたについて話しあいました。その中で「支援依存」という言葉が心に残りました。支援を受け続けているうちに支援が当たり前と思い込んでしまう事がどうなのかと考えるようになりました。今回の意見交換会では気づくことが多くあり、自分にとってとても充実した意見交換会になったと思います。これからはここで学んだことを自分の生活に生かせるよう頑張っていきたいです。ありがとうございました。

(桂 敬太 高3)

私は自衛隊試験に向けた勉強をするため、去年の6月からソントハウスに通い始めました。自衛官を志望した理由は震災がきっかけで被災した山田町のため力になりたいと感じたからです。分からないことがあれば竹内先生たちが丁寧に教えてくださり試験内容を克服できました。また、飲み物や軽食なども用意してくださり勉強はとて有義で集中力を切らさず取り組むことが出来、お陰様で自衛隊の試験に合格しました。今回の意見交換会では宮城福島岩手3県の震災の現状を知り改めて1日でも早く復興してほしいという気持ちが強くなりました。私は四月から航空自衛隊に入隊します。3ヵ月間のつらい訓練がありますが一生懸命取り組んで一人前の自衛官になって頑張っていきたいと考えています。最後に、支援してくださった全国の皆様、ソントハウス、東洋大学の方々には感謝しています。ありがとうございました。

(一条 諒 中3)

(56)

意見交換会1日目では被災地での支援やイベントを振り返りました。そこで感じたのはこんなに全国からたくさんの皆さんに支援していただいていたのだなということを感じました。
二日目は他の3県の方々との意見交換でしたが、それぞれの内容を聞いてみると私の知らなかった事柄が多く話されてるほどと考えさせられました。やはり聞いてみないと分からないことが多くあり私自身は学ぶべきところが沢山あることに気づきました。
三日目は東洋大学の皆さんから東京名所巡りをさせていただいてとても楽しかったです。今回のシンポジウムではいろいろなことが体験でき良い経験になりました。有難うございました

(前川 二千 中3)

今回の意見交換会ではたくさんの方々にお世話になりました。
夜行バスで到着の朝にご飯や昼ご飯も作ってくれた方々、コープみらいさんのところでは皆さんが真剣に僕たちの話を聞いてくださり、いかに自分たちソントハウスのことを考え支援してくださっているのか改めて感謝の気持ちを感じることが出来ました。意見交換会では他県の中高生や大学生大人を交えて話をしました。みんな真剣に聞いてくれたし他の地域の事も知れて本当に良い経験をさせていただきました。三日目は朝から東洋大生の皆さんから東京案内していただき本当に楽しかったです。良い思い出となりました。
いままでは間接的にありがたいと感じていましたが朝・昼ご飯をつくってくれた方々、東京ソントハウスの向井さん・森田先生・コープみらいの方々・東洋大生の方々そのほか意見交換会に携わってくれた方々本当に有難うございました。自分はこれからもソントハウスで学んだことを活かして頑張りたいと思います。ありがとうございました。

(佐々木 蓮 高3)

(57)

今回被災地の意見交換会に参加して初めて岩手以外の被災地の状況を知りました。同年代の人たちとこのような会に参加したのは初めてで自分自身得るものが多くありました。このような参加の機会やソントハウスに通えるのも支援してくださった多くの方々のお陰です。とても感謝しています。

私はソントハウスに通い始めてから4年経ちましたが、ソントのお陰で集中して勉強ができ今年からは短大生として自分自身ができることを積極的にやっていきたいと思っています。また、これからも意見交換会には参加したいと考えています。ありがとうございました。

(大川 ともひろ 高3)

今回のシンポジウムに参加したことは、他県の多くの生徒たちと意見交換ができ自分にとって良い経験となりました。

ソントハウスでは、試験勉強しているときに分からない問題を丁寧にわかりやすく教えてくれてとても助かりました。時には楽しい話もできて非常に良かったです。自分はこれから就職しますが、大きな壁にぶつかることもあると思います。わたしはその壁を乗り越えて成長していきたいと思っています。

(上沢 りえ 高1)

(58)

東京での意見交換会では他県の人たちと新たな出会いがあり自分が知らないところでいろいろな活動をしていることがよく分かりました。
そこで支援を受け続けている私たち高校生はこれから何かの形で恩返しをしたいと思いから、小規模ですが「700 cafe(スーカフェ)」というおもてなし喫茶の活動を開始しました。いろいろな方々が来店し楽しんでいただいたので今後も引き続きソントハウスでの喫茶活動は頑張っていきたいと考えています。

今まではいろいろな方々からお世話になってきました。意見交換会では朝ごはんを作ってくれた皆さんにも感謝しています。今回3日間のシンポジウムでは全国の方と多くの出会いもあり、笑顔でいられるのは全国のたくさんの方々に支えられていることが実感できました。これからも支援者の皆さんの期待に応えられるよう頑張りたいです。

(佐々木 麗緒 高1)

今回の参加は2回目なので緊張せずにいろいろな思いなどたくさん聞くことができ自分も話すことが出来たのでとても良い経験となりました。

3日目の東京観光はゼミ生の皆さんが案内してくれてとても楽しかったです。ソントハウスにはほぼ毎日お世話になっており中学1年から来ているので今年で4年間もお世話になっているのです。そのようなソントハウスのお陰でたくさんの方との関わりができましたし、大きく成長することができたと感じています。

毎日スタッフさんとたわいもない会話をしたり、大学が長期休みの時には東洋大生が来てくれてクリスマスパーティーや東京の話などたくさん楽しい思い出が出来ました。ソントスタッフの皆さん、東洋大学の皆さん、そのほかご支援いただいた全国の皆さん今まで本当にありがとうございました。これからは自分たちが頑張っていきます。

(小林 未空 高1)

(59)

東京での意見交換会は初めての参加でもあり多少緊張しましたが、いろいろな立場の人たちと大震災に関してたくさん話すことが出来、今まで考えたことがないような事柄についても深く考えることが出来るようになりました。これからの私にとって非常に良い経験をしたものと感じています。

日ごろ何気なくソントハウスに通っていたのですが、実はたくさんの方々の支援があつて成り立っていることに気づきはじめてあり難いと思うようになりました。

シンポジウム最後の日は東洋大生の案内により初めて原宿に行ったのですがいろいろなお店があり見ていてすごく楽しかったです。

このように自分自身が深く考えることや楽しい体験ができたのもソントハウススタッフの皆さんや東洋大学の皆さん、そして山田を支援してくださっている全国の皆さんのおかげだと思っているので現在はとても感謝しています。ありがとうございました。

(60)



主催者の森田先生も成長した中高生を見つめる眼差しは非常にあたたかい。



(61)

岩手・宮城・福島の被災地中高生達は熱心に意見交換し絆が深まります。



(62)

シンポジウム・意見交換会が終わってほっと一息のゾンタ中高生。



(63)

シンポジウム終了後、東洋大ゼミ生が東京タワーを案内してくれました。



(64)

シンポジウム・意見交換会の次の日、ゼミ生とゾンタ中高生が各グループに分かれて、社会見学と称し東京案内をしてくれました。
.....今からそれぞれ出発で〜す!!



(65)

ゼミ生たちのサポートによりシンポジウム・意見交換会も無事終わり楽しい東京見学もできました。東京駅で解散・・・ありがとうございました。

終わりに・・・「ふるさと山田を取り戻したい！」

あの3.11の大震災で山田の街並みは姿を消し歴史の中に封じ込められてしまいました。色彩豊かな素晴らしい山田の風景はとても懐かしく、今でも様々な思い出のざわめきが聞こえてきます。

今回の報告のように、ゾンタハウスの中高生たちは5年間にもおよび森田先生はじめ、兄・姉貴のようなゼミ生からも常にサポートされ、同時に全国の多くの皆様にも支えられ日々成長してきました。最近においては、東京でのシンポジウムで意見発表や体験発表をしてきた高校生たちから「今度は自分たちが山田を元気にするため何か活動をしたい!」という意思が示され、今年度からゾンタ高校生による「Z00 café(ズーカフェ)」を開設し地域の方々や中高生の居場所づくりを行うためラテアートに挑戦しながら開催中です。

このように震災後5年5ヶ月が経過し現在ハード面は整備されつつありますが、やはり心の拠りどころとなる場所や温かい人間関係はなお一層重要になるものと思われます。そのような状況から明日を担うゾンタハウスの中高生たちは、皆様の支えを糧に新しいふるさと山田を取り戻すため張り切って活動し始めております。

5年5ヶ月が経過しました。今後ともご支援頂いている皆様には、山田の子供たちを見守って頂きますよう宜しくお願い致します。